

福岡・大手町遺跡（小倉城外堀跡）

- 1 所在地 福岡県北九州市小倉北区大手町
- 2 調査期間 二〇〇四年（平16）四月～一〇月
- 3 発掘機関 財北九州市芸術文化振興財団
- 4 調査担当者 前田義人・梅崎恵司
- 5 遺跡の種類 城郭跡・堀跡
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（小倉）

大手町遺跡（小倉城外堀跡）は、響灘に注ぐ紫川の左岸、勝山丘陵上に位置し、標高一一mに立地する。細川忠興により慶長七年（一六〇二）に築かれた豊前小倉城の南端外堀にあたる。調査区は清水口門と篠崎口門に通じる堀である。正保四年（一六四七）の絵図によると、堀は「幅八間深七尺」の規模

をもち、内側に「土居」をめぐらし、隅角部に瓦葺きの櫓が配され、さらに内側は空地となり侍町が続く。

調査の結果、堀床に岩盤を削り残した障子が検出された。障子堀が確認されたのは九州では初めてである。木簡は、障子が埋め戻された後に、堀外壁に堆積した赤褐色粘質土から、陶磁器類とともに一点が出土した。共伴遺物は一七世紀後半から一八世紀にかけてのものである。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「ちはや村」

・「□ □ □」

96×30×5 0.51

上端は面取りされ完形。荷札として利用されたのか下端が尖っている。表面の「ちはや村」の詳細は不明。裏面には二カ所に墨痕が認められるが、判読できない。

9 関係文献

（財）北九州市芸術文化振興財団「大手町遺跡（小倉城外堀跡）」（財北九州市埋蔵文化財調査報告書三七二、二〇〇七年）

（前田義人）

